

特別講演 1

「糖尿病で失明させないために ～求められる内科と眼科の連携～」

福井大学医学部医学科 感覚運動医学講座 眼科学領域准教授

高村 佳弘 先生

後天性失明の原因として、糖尿病網膜症は緑内障、網膜色素変性症に次いで第3位に後退したと言われる。内科と眼科の医療の進歩が実を結んだものとも考えることもできるが、なおも働き盛りの世代における主要な視力障害の原因であることに変わりはない。糖尿病による視覚身障となった患者の全国実態調査を行った所、高度医療機関の眼科に紹介された時にはすでに糖尿病網膜症がかなり重症な状態になっていることが明らかとなった。早期の段階で治療介入ができていない、この事実は内科と眼科の連携の重要性を改めて示唆している。本講演では、糖尿病網膜症や黄斑浮腫の進行過程や診断と治療について解説した上で、糖尿病に失明者を出さないようにするために何ができるかについて考える機会としたいと思う。また近年は、眼に影響を与える血糖降下薬も出現しており、それらについてもご紹介する。本講演をきっかけに福井県における内科と眼科の連携強化につながれば幸いである。